

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 建築環境総合性能評価システム 使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社二友組 新社屋新築工事	階数	地上4F
建設地	名古屋市名東区一社四丁目255番1、255番2、255番3、255番4、255番5	構造	S造
用途地域	第1種住居地域、準防火地域	平均居住人員	45 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,168 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2022年11月 予定	評価の実施日	2022年11月5日
敷地面積	1,906 m ²	作成者	
建築面積	902 m ²	確認日	2022年11月7日
延床面積	2,981 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

= BEE1.4

★:★★★★★ A:★★★★ B:★★★ B:★★ C

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆ 100%超 ☆☆☆ 100% ☆☆☆ 80% ☆☆☆ 60% 30%

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 77%
③上記+②以外の 77%
④上記+ 77%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア= 2.9

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.7

LR 環境負荷低減性 LRのスコア= 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.5

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.3

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
照明器具にLEDを採用また人感センサー制御を採用し省エネに貢献。また、全熱交換器の採用により換気による熱のロスを低減し快適な室内環境へつなげ二酸化炭素排出低減につなげている。		廃棄物の分別収集、分別監視・専門工事別回収をすることにより廃棄物発生抑制に努めます。
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
ロールカーテンを設置することで昼光制御へつなげている。建築材料は、F☆☆☆☆を全面的に採用するよう努めている。	維持管理に必要な掃除流しを採用することでより作業効率を上げる様に努めている。用途変更の可能性などを考慮し、階高や空間の形状等ゆとりある計画としている。	電気設備・空調設備を屋上へ設置することにより、設備に伴う排熱を高い位置から放出する様に努めている。敷地の外周へ緑地(高麗芝)を計画し、緑の量確保に努めている。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
照明器具算定において省エネ基準を満たし、また人感センサー・タイマー等を採用することによりエネルギー消費低減に努めている。	衛生器具は節水型を採用し、センサー一体形小便器・自動水栓を採用することで水資源保護に努めている。汚染物質含有材料の使用回避に努めている。	敷地内に十分な駐車場を確保し、周辺への影響低減に努めている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

株式会社二友組 新社屋新築工事

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.9
LR1	エネルギー	4.0	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.9	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				2.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	無	0.009
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				3.5
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.6	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.9



2. 自然共生

評価点 = 2.3



3. 循環型社会

評価点 = 3.5



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。